

## 中国語における新語の受容

——『現代漢語詞典』（2002年修訂第三版増補本）の増補語彙を中心として——

氷野善寛

### 1 『現代漢語詞典』について

#### 1.1 『現代漢語詞典』の歴史

『現代漢語詞典』とは、現在の中国社会科学院語言研究所辞典編輯室が編纂し、商務印書館より1978年に初版が出版されて以来、幾度かの改訂が加えられながら34年間にわたり世に送り出されている、現在中国において最も普及している中型の中国語辞典である。もともとは1956年に国務院が発布した「普及普通話的指示」に賛成して、1957年から資料を収集し、1958年から編纂を始め、1959年に初稿が完成したものである。その後1960年に「試印本」として意見を求め、1965年に「試用本」として原稿審査を行い、さらに1973年により多くの人の意見を取り入れるため、さらに修訂を行い、読者の需要に答えるために1965年の「試用本」を利用して内部発行を行った。そして1973年に試用本に対する修訂作業が始まったが、四人組の妨害を受け、1977年になってようやく修訂作業を完成し、1978年12月について正式に初版が刊行された。

以上のことを整理して、中国語に関する政府の決定事項と併記して、初版出版までの『現代漢語詞典』の系譜をまとめてみると、一連の流れは以下ようになる。

1956年	国務院が「推广普通話的指示」を発布
1957年	資料収集開始
1958年	「漢語拼音方案」批准。辞書編纂を開始
1959年	初稿完成
1960年	「試印本」として意見を収集
1964年	「簡化字総表」発布
1965年	「試用本」として原稿審査
1973年	「試用本」を内部発行/1400p/19cm/53000語余
1977年	「試用本」の修訂作業完了
1978年	12月に正式に北京商務印書館より初版が出版される

その後北京の商務印書館から出版された「現代漢語詞典」1978年の初版本の形態は、1567頁/56000語余である。その後幾度かの細かい修訂を経ながら1983年に二版が出版され1581頁になり、1996年

には修訂第三版が1722頁/60000語余に増え、2002年5月に修訂第3版増補本が出版され1767頁となり、初版から収録語彙数が徐々に増えていった。

また『現代漢語詞典』是北京だけにとどまらず、香港の商務印書館分館からも出版され、1977年11月(初版)1400頁/53000語余と1980年(修訂本)1567頁の二つが現在のところ確認できている。その形態から香港版の初版はおそらく1973年の「試用本」と同じ物ではないかと考えられ、1980年の修訂本はおそらく北京初版と同じ物ではないかと考えられる。それ以後の改訂については、まだ現在調査を行っていないのでここでは言及しない。また日本でも1977年に龍溪書舎から1973年の「試用本」を底本にしてリプリント縮刷版と特装版の二種類が出版されている。

今回の調査では、この中の2002年5月に商務印書館から発刊された『現代漢語詞典』(修訂第三版増補本)中国社会科学院語言研究所詞典編輯室編に追加登録された語彙の整理分析を行うことを目的とする。この調査により前回、当辞書が刊行された1996年『現代漢語詞典』(修訂第三版)から約7年間で中国語において主にどのような語彙が吸収され、また社会的に必要なになってきたのかを知ることができるのではないだろうか。

## 1.2 『2002年現代漢語詞典修訂第三版増補本』の増補語彙

2002年度増補本の出版説明によると、1996年度修訂本を基礎に近年増えた新語新義1200語余りを辞書の本文の後ろに追加したとある。ただ、この中にある語彙全てが新語新義というわけではなく、社会変化に伴い近年使われる頻度が高く、1996年の修訂の際に未収録だったものもあわせて収録されており、社会の需要を反映したものとなっている。さらにアルファベット略語にも多くの補充があり、中国語の中での非漢字表記の用語の重要度が次第に高まりつつある事も示している。以上のことから全てを新語と扱うには多少無理があるが、本文では、これらの語彙のすべてを新語新義として扱うことにする。

以上の点に注意して、実際に追加語彙を調べてみると増補語彙は1204語であり、アルファベット略語は142語ある。これより以下は、主にこの新語新義1204語に対して重点的に分析を加えていく。

## 2 分野分類

では実際、語彙はどの分野で追加がなされたのか、具体的にいくつかの項目を設けて、単語を分類していきたい。ただし分類といってもその捉え方によって大きな違いが生じるかと思う、今回は以下のような項目に基づいて分類を行う。

分類	内 容
政治類	政治活動・政治思想等
経済類	経済活動・株式・販売・流通・金融・経営・オークション・不動産・統計・雇用・賠償等
医療類	医療活動・病名・麻薬・薬品・介護等
法律類	法律・税制・規制・不法犯罪行為・警察活動等
電算類	PC関係・インターネット関連・電気機器
通信類	(インターネットを除く)通信・携帯電話・モバイル・通信動作・情報科学等

食物類	食文化・料理名等
文化類	生活・旅行・家族・娯楽・歌曲・社会文化・芸術活動・店舗形態・社会生活・衣料等
メディア類	マスコミ活動・映画・テレビ報道・タレント・放送等
産業類	生産活動・産業技術・特許関連等
環境類	環境問題
理科類	物理・化学・生物化学・科学技術・気象・天文・自然現象・植物・生物
体育類	体育・スポーツ関連・競技等
軍事類	軍事活動・軍事兵器
教育類	教育活動
農業類	農業
宗教類	宗教
交通類	道路整備関連・運転免許等
固有	固有名詞・地名・商標
その他	汎用性の高い単語・その他分類不能の単語

その結果次のような数値がえられた。

分類	語彙数	%	分類	語彙数	%	分類	語彙数	%
政治類	12	1.0	文化類	71	5.9	教育類	23	2.0
経済類	312	26.0	メディア類	35	3.0	農業類	3	0.2
医療類	32	2.7	産業類	36	3.0	宗教類	2	0.2
法律類	100	8.3	環境類	49	4.1	交通類	22	1.8
電算類	96	8.0	理科類	38	3.2	固有	2	0.2
通信類	26	2.2	体育類	43	3.6	その他	279	23.2
食物類	13	1.1	軍事類	10	0.9			

ここからすぐわかることは、圧倒的に経済類に分類される語彙が多く、次に法律類、電算類と続くことである。経済類に分類されているものには、経済活動・株式・販売・流通・金融・経営・オークション・不動産・統計・雇用・賠償等が分類されているが、その中でも株式売買や金融に関するもの、また不動産に関わるものが多くの比率を占めていた。改革解放経済の発展に伴い、一般の人の生活に、こういった経済活動がいかに密接した関わりがあるかをよく示した結果といえる。またパソコンを中心とする技術の発展に伴い、今ではもうお馴染みになった電子メール - E-mail や万維網-WWW などのパソコン用語が辞書に多くの新規登録がなされた。法律用語の浸透は、法律に関するものだけではなく、税制などの面や、不法・犯罪行為とそれに対する警察の取り締まりに関する用語が増えたのが特徴的である。また最近のワールドカップやオリンピックの影響もあり、サッカー関連語やオリンピックの種目名など、それら体育活動に関連する語彙が増えたことも、社会との関係を如実に表した結果となった。

逆に増加の割合の少ない分野は、政治や軍事などが挙げられる。特に政治では「邓小平理論」と「三个代表」等といった政治思想が辞書に盛り込まれたぐらいで、その他の語彙の登録は見られない。最近

の中国の政治と経済の関わりをよく表しており脱イデオロギーが顕著になった。

また、分類項目として特には設けなかったが、人や職種を表す語彙が増加したことが一つの特徴としてあげられる。例としては以下のようなものがある。

老总 (人民解放軍の部隊司令官にたいする敬称)、保安 (警備員)、警嫂 (警察官の妻に対する尊称)  
 军嫂 (軍人の妻に対する尊称)、空乘 (飛行機の客室乗務員)

### 3 品詞分類

『現代漢語詞典』(修訂第三版増補本)に登録された新しい語彙を品詞分類すると、凡そ以下のような分類がなされる。名詞が763例、動詞が319例、形容詞が30例で、名詞と動詞を兼用しているものは64例、動詞と形容詞を兼用しているものは3例、形容詞と名詞兼用は14例あった。また成語には浮出水面(水面に浮かびあがる→(比喩)事態が明るみにでること)、一头雾水(何がなんだかわけがわからないさまを表す)、与时俱进(時代に即して発展変化する)などを合計7例があった。一般的に新語には名詞が多いように思われるが、『現代漢語詞典』に登録された新語には名詞成分以外にも動詞成分のものも多く、また動詞に関しては、特に方言からの動詞成分(搞定、埋单などの)の登録が目についた。

### 4 新語の来歴

これら新語はどこからきたのか、という問題はしばしばとりあげられる。多くの新語は外来の概念であるが、それらの流入経路は様々である。

#### 4.1 方言・港台詞からの普通話への進出

新語の中には方言詞が普通話に入っていくという現象がしばしばみられる。確認できただけで少なくとも32例あったが、そういった語は主に南方の方言からの進出が多く、その地域の経済発展度などが大きく貢献していると思われる。中でも台湾語、広東語からの普通話への進出が多い。それらの地区の語はまとめて港台詞(香港地区と台湾地区の語彙の総称)と呼ばれ、普通話への語彙の進出が目覚しく、最近の普通話形成の特徴の一つでもある。これらは普通話で発音される際には、方言音に基づかず、北方音で読まれることに注意しなければならない。これらの語彙については、以下のような例が見られる。(例:語彙/品詞/意味/もとの使用地域)

写字楼/名詞/オフィスビル/広東

派对/名詞/パーティー(外来音訳語)/香港・台湾

资讯/名詞/情報/(外来義)台湾

埋单/動詞/勘定を払う/広東

打拼/動詞/力いっぱいがんばる。努力する/台湾

この中には派对や资讯のように、もとは外来の意味のものであったものが、その地区で翻訳され、外来語として認識され、その地区で主に使われていたものが後に普通話として採用されたものもある。

## 4.2 外来概念の流入

外来語とは狭義には漢語以外の言語体系から「音」を吸収したものを指し、広義にはさらに中国以外で発生した概念を中国語の造語形式に基づいて表したのも指す。この場合一般的に「意識語」と分類され、広義にはそれらも外来語の範疇に入ると考えられることができる。しかし、たとえ外来の意味であっても、中国語の造語形式に基づいているため外来語とするかどうかは意見がわかれるところである。狭義的には外来語には「音訳語」「音意併用語」、そして「借用語」の3つを外来語として認識する。この項ではどこまで外来語で、どこからが外来語ではないかという問題については、深く検証することはしないので、この点についてはこれ以上ふれず、分類を進めていきたい。以下これらの語彙について増補本ではどのような追加があるのかを述べていきたい。

### ①音訳語

原語の発音に似通った漢字の発音に当てはめ使用。このため漢字自体には意味は無い。

比特-bit 納米-nano 欧佩克-OPEC 氟利昂-freon 氟氯烷-freon 克隆-clone 二恶英-dioxin  
の合計7例が有り、多くが化学用語である。

### ②音意併用語

音意併用語には音訳兼意識のもの。音訳語に属性が追加されたものの二つがある。

音訳兼意識型のは漢字がその概念を表しておりさらに、音も非常に原音に近い。7例。

黑客-hacker 可乐-cola 万维网-WWW 蹦极-bungy 派对-party 雅飞士-yuffies 雅皮士-yuppies  
また属性追加型は半分が音訳で外国語の言語の音を表し、半分はその原語が持つ意味の漢字を中国語で表して、前の音を補強する。

氧吧- 酸素バー 乌龙球-オウンゴール 伽马刀-ガンマナイフ

など音訳語には合計31例がある。

### ③意識語

意識語も外来の概念を表す語彙であることには変わりはないが、中国語の造語方式に基づいた造語である。この意識語には二つの種類があり、一つはただ英語を漢字に置き換えただけの直訳語で、帽子戏法-hat trick などその例として上げられる。またもう一つは外来の概念をどういう意味であるかを噛み砕き中国語に訳出したのものである。これら意識語を外来語とするかどうかは前述の通り意見がわかれるところであり、までを外来語とするかは非常に難しい問題である。直訳・意識語の例は以下の通り。

垃圾股-くず株 泡沫经济-バブル経済 微波炉-電子レンジ

平台-プラットフォーム 数据库-データベース 铁人三项-トライアスロン

### ④借用語

借用語は特に明治期に日本がヨーロッパやアメリカなどの科学述語あるいは一般用語を日本語に翻訳する際に、中国語の語あるいはその語素を利用した。その中の一部の語は中国語に逆輸入され使用されるようになった。つまりこれまで中国語にあった言葉を利用したわけだが、これまでにない新しい意

味が付与されたわけであり、外来語として分類されている。これは以下に見られる日中同形語と大きく関連があるので次の項で述べることとする。

#### 4.3 日中同形語（日本語からの借用の可能性）

増補語彙の中の日中同形語は96例有る。それらは以下の3つの項目に分けることができる。

##### ①日中で意味が同じ同形語

赤潮 低迷 空港 歩道 解读 盲点 納税者など84例。

##### ②日中で意味が違う同形語。5例。

非礼（日：礼儀に外れる様、中：女性に悪ふざけをする）

地稅（日：土地にかかる税、中：地方税）

放水（日：水を勢いよく出すこと、中：八百長試合をする）

数秒（日：数秒 中：秒読み）

士官（日：軍隊における、佐官・尉官の総称。中：志願兵役制の兵士のこと）

##### ③同じ意味と違う意味が混在する同形語。7例

包装（日中：包装、中：人や物に対してイメージアップを計る）

人気（日中：人や物の人気の程度、中：人の品格を指す）

料理（日中：料理、中：処理する）

病毒（日中：ウイルス、中：コンピュータウイルス）

封杀（日中：ファーストアウト、中：書籍や雑誌などを発禁する）

透析（日中：(医)透析 中：透徹した分析）

小児科（日中：(医)小児科、中：つまらない仕事、(方)けちくさい）

さらに、日本語にはありそうで語彙（これらは日中同形語の数には含まれず。）には、高架路、国家公园、国有企业、保税区、经济开发区、邓小平理论、三个代表などがあり、中国の概念が新聞やメディアを通じて流入してきている例でもある。主にイデオロギーや政治体制についてのものが含まれる。

#### 5 新しい意義の添加

もともと中国語として存在する語彙に対して、比喩により新しい意味を追加して、新義を形成する方法が、今回の語彙増補において見られた特徴的な形成方式の一つである。

包装（原義：包装、包装する→新義：人や物に対してイメージアップを計る）

夕阳（原義：夕方の太陽/名詞→新義：斜陽の/形容詞）

聚焦（原義：物理用語・光等を使って焦点を結ぶ→新義：視線や注意力を一点に集中させる）

充电（原義：充電する→新義：学習を通じて知識を補充し、技能などを高めることを比喩）

また、長い間使われていなかった旧語（1950年以前に使われていた語彙）に対して、新しい意味が追加され、最近再び使われるようになったケースも見受けられる。

老总（庶民の兵士や警官にたいする呼称→人民解放軍の部隊司令官にたいする敬称）

さらにはコンピュータ用語によく見られた特徴として以下のように、一般語彙に新しい意味を追加させて登録されたものもある。

病毒（ウイルス→PC ウイルス） 防火墙（防火壁→ファイアーウォール/PC 用語）

## 6 縮略語について

縮略語の例としては、名詞、動詞それぞれに多くみられた。以下どのようなものがあるか列挙する。またアルファベットで始まる語彙についても縮略語について考察したところ以下のような三つの分類の特徴が存在した。

名詞の略語化（単純な縮略ではなくて名詞の並列による縮略も含む）（154 例）

大本（大学本科） 空港（航空港） 婚介（婚姻介绍）

動詞の略語化（動+動の並列）（113 例）

查控（偵查+控制） 编创（编写+創作）

アルファベットで始まる語彙の縮略（130 例）

ピンインの縮略語：HSK（汉语水平考试）Hanyu Shuiping Kaoshi

英語の縮略語：MP3（Mpeg 1 audio layer 3）→英語をそのまま導入

漢字を含む語の縮略：B 超（B型超声诊断）超音波を利用した診断

## 7 派生語の形成→語素の形成

多くは外来語に見られるが、一つがよく使われる語素が形成され、其れに基づき、次々に外来語が形成されていった、それらにはたとえば网、卡、吧、股などの語彙が増補語彙の中では見られたが、一音節の響きのよい音訳語彙が多いのが特徴である。

股：参股（株主になる）、炒股（株を売買する）、个股（個人株）股民（一般の個人投資家）、

股海（株式市場）、股灾（株の大暴落）、红筹股（レッドチップ）、红股（優先株）等...

吧：吧台（[バーの]カウンター）网吧（インターネットカフェ）、氧吧（酸素バー）

网：布网（警察が網を張る、配置する）话网（電話の通信システム）、网站（サイト）、

网民（ネチズン）、网友（ネットフレンド）、下网（インターネットの接続を切る）、因特网（Internet）

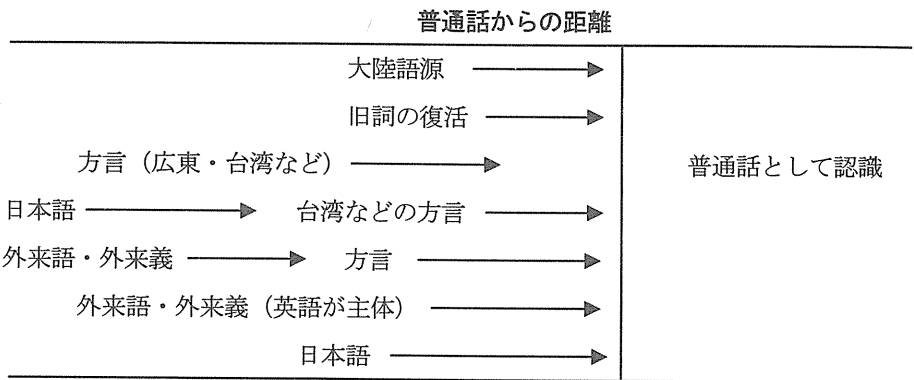
## 8 日本の辞書での反映度

日本での辞書ではこの『現代漢語詞典』（修訂第三版増補本）で新しく採用された語彙がどれぐらい多く反映されているかを手元にある辞書で調べてみた。最近発行された二冊の辞書について調べてみたが、その結果、白水社中国語辞典（2002年2月発行）では157語、小学館中日辞典二版（2003年1月発行/販売は2002年11月）では1146語が、採用されており、小学館の中日辞典がより多くの語彙を採用されていたことがわかる。この小学館の反映度の高さはひとつに、小学館と商務印書館との間に提携

関係があり、辞書制作の際に『現代漢語詞典』(修訂第三版増補本)を大いに参考にしたためであると推測できる。

## 9 おわりに

今回の調査では、駆け足で調べたため、多くの分類間違いや、認識違いの箇所もあるかと思うが、大雑把に『現代漢語詞典』(修訂第三版増補本)を整理分類した結果、以上のような数多くの傾向と特徴が明らかになった。その中でも、今回の増補の中で見られた最も特徴的なことは、専門用語(業界用語)の増加或いは一般化である。その多くは外来語であり、また外来義である。またそれらの語彙形成にあたっては、数多くの方法やプロセスを経ることによって語彙が形成されていることがわかる。たとえばそこには中国の中で発生して、中国人が作った語彙もあれば、外国で発生した意味が、直接普通話に外来義としてはいったもの、台湾や香港を経由して入ったもの、また日本語から直接形を借りて入った語彙、中国語の中の方言から入った語彙など、普通話として認識されるにはいくつかの段階と方法があることがわかり、それらによって構成プロセスも変わってくる。そして、それぞれの語彙の形成には普通話からの距離があり、それらの距離により語彙の形成方法の構造に違いがあるのではないかと考えることができる。



また逆にそういった距離の違いが語彙の形成に及ぼす影響といったものがあるのかないのか、今後、これらの新語新義語彙の構造分類を進めることにより、この問題と関連付け、考察を加えていきたいと考える。また今回の調査では『現代用語詞典』(2002年修訂第三版増補本)についてしか見ていないが、以後、第一章であげた、『現代漢語詞典』の系譜における他の版の辞書についても考察を加えて、今回の調査結果とあわせて、現代中国語の語彙を考える上での参考にしたいと考える。

### 参考辞書

『現代漢語詞典』商務院書館/1996年修訂第3版

『現代漢語詞典』商務院書館/2002年修訂第3版増補本

『中日辞典』小学館/2003年1月第2版 『中国語辞典』白水社/2002年2月初版